

## 為真白山神社祭禮

謹んで御挨拶を申し上げます。

このたび、為真白山神社では五穀豊穰に感謝し平和安寧を祈念すると共に、泰澄大師手植の桜遺木収蔵庫完成、災害復旧工事、東幹線道路の完成を慶祝して、5年振りに祭禮を催し、謹んで御神前に大神樂を奉納する運びとなりました。

皆様方には、御多用のところ賑々しく御光来賜りまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

### 【為真白山神社】

この白山神社は、古来より為真住民の氏神であると共に、白山美濃馬場・中宮長滝寺の六所王子の一社であるという由緒をもつ社であります。

白山神社創祀の由来は、古記録によると、雄略天皇21年(477)に白山へ大神を祀れとの勅命が下り、勅使大途見彦命が奈良の都から白山への道すがら、立花州原・刈安・梅原・佐良・金剣への祭祀を経て、この地に和幣(しで)をかけて、神を祀ったのが初めとされています。このことから里人は、古来からシデカケの宮として敬ってまいりました。

また、養老年間には、泰澄大師がこの社に休まれ、桜の木を植えられたと伝えられています。安永2年(1773)中宮長滝寺より伊奘冊尊の御神像を贈られたのを機に、社殿を再建すると共に、社号を白山神社と改め、以後この里の鎮守の神様として今日に至っています。



為真白山神社

### 【白山神社のヒノキ】

白山神社社殿西側のヒノキは、胸高幹周り3.3m、樹高約30m、推定樹齢300年の巨樹であり、平成12年3月白鳥町天然記念物第5号に指定されました。

### 【連枝の椿】

白山神社の社叢には、積雪の多い地域としては珍しく椿の群生が見られます。その中に根元で2本に分かれた幹が、2mほどのところで枝が繋がる不思議な椿があり、古くから縁結びの椿として語り継がれています。

また境内には、杉とケヤキの樹種が異なりながら枝が連なるものがあることから、当神社が縁結びの神、商売繁盛の神としても崇敬されています。